ほっと石川観光プラン２０１６（仮称）

平成２８年２月１８日
石　　川　　県

Ⅰ　「ほっと石川観光プラン２０１６（仮称）」の策定にあたって

１　策定の意義

平成１７年に「新ほっと石川観光プラン」を策定し、北陸新幹線金沢開業を見据え、平成２３年３月に改定し、平成２７年の観光入り込み客数２，５００万人、うち首都圏誘客５００万人を目標に観光誘客の拡大に取り組んできたところである。

この結果、平成２７年の観光入り込み客数は、全体で約２，５００万人、うち首都圏では約４５０万人となると見込んでいる。

北陸新幹線開業によって新たな時代を迎えた石川の観光を、将来にわたって石川の活力を牽引する基幹産業として飛躍・発展させるため、北陸新幹線敦賀延伸などの陸・海・空の交流基盤の整備の進展、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催など大きな環境変化を見据え、**今後１０年間の石川の観光を展望した重要な指針として策定**する。

２　計画期間

平成２８年度から平成３７年度まで　※　５年後の平成３２年度に中間評価を行う

３　推進体制

- 県は、宿泊・交通事業、商工業等の観光関連事業者の代表者等で構成する観光連盟や観光団体、市町と緊密に連携して、このプランを推進していく。
- このプランを柔軟かつ着実に推進するため、官民一体となって、**「ほっと石川観光プラン推進ファンド（仮称）」**を新たに創設する。

Ⅱ　観光を取り巻く環境の変化

○　北陸新幹線金沢開業

平成２７年観光入り込みの状況

多くの観光客が本県を訪れ、金沢のみならず、加賀・能登も賑わう。　県内観光入り込み客数　２，５００万人　うち首都圏４５０万人

○　交流基盤の整備の進展

北陸新幹線敦賀延伸、クルーズ船の寄港の増加、陸・海・空の交流基盤の整備

○　東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

訪日外国人旅行者数2000万人の目標達成が視野に入ってきたことを踏まえ、国において新たな目標等を検討

○　旅行ニーズの多様化など

個人旅行の増大、観光客の趣味・趣向の多様化、ＩＣＴの発展とその利用拡大など

Ⅲ　観光振興の基本的な考え方

１　基本戦略

○　県民生活との調和を図りつつ、観光客の満足度を高め、繰り返し本県を訪れていただくよう石川ファンを拡大

○　東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催とその後を見据えた海外誘客の促進

○　次代を担う石川の観光人材の育成

２　誘客目標（目標年次：平成３７年）

県内観光入り込み客数	３，０００万人	（平成２７年見込：２，５００万人）
三大都市圏からの観光入り込み客数	１，３００万人	（平成２７年見込：　９００万人）
首都圏からの観光入り込み客数	７００万人	（平成２７年見込：　４５０万人）
外国人宿泊者数	１００万人	（平成２６年実績：　３０万人）

３　施策体系

〈 重点戦略 〉

１　新たな魅力づくりと満足度向上による石川ファンの拡大	(1) 旅行ニーズの多様化に対応した観光魅力の発掘・磨き上げ、旅行商品化の促進 (2) 石川の優れた文化を活かした誘客の促進 (3) 観光地の活性化とまちづくりの推進 (4) ＭＩＣＥや教育旅行誘致の推進
２　石川ファンの拡大を図るためのおもてなしの向上	観光客の声を活かしたおもてなしの向上など
３　石川ならではの魅力の発信	(1) 本県認知度向上のための効果的な情報発信 (2) 旅行ニーズの多様化に対応したきめ細かな情報発信
４　広域連携による県域を越えた周遊観光の促進	ＪＲと北陸三県が連携したキャンペーンの実施など
５　海外誘客の促進	(1) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会とその後を見据えた本県の認知度向上 (2) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を活かした誘客の促進 (3) 外国人受入環境の充実
６　観光振興を担う人材の育成	次代を担う観光人材の育成など
７　交流基盤の整備と活用	(1) 陸上交通網の活用　(3) クルーズ船の戦略的な誘致 (2) 航空路線の活用　(4) 二次交通の充実